

半年間の備忘録

会員 大日方 史野

1 はじめに

弁護士になって、約半年。本稿では、備忘も兼ねてこの半年間を振り返っていかうと思う。

2 テクノロジーと出張

当事務所のリクルートに携わっていたときの話である。応募してきてくれた方が、「わざわざ出張に行ったり、期日に出頭したりせず、インターネット等を利用して効率的な制度に見直すべきだ」と仰っていた。

話は変わるが、民事再生手続の申立代理人を経験したときのことである。甲信越に出張したり、会社に常駐したりして、声を荒げる債権者に対応したり、クライアントの相談にいつでも対応することで、信頼関係が構築された。どうやら、弁護士がすぐ近くにいることは大きな安心につながるらしい。

話は元に戻るが、当職も以前はテクノロジー万歳の人間であった。しかしクライアントの視点に立つと、テクノロジーをどこまで受け入れるか要検討であると感じるようになった。

話はそれるが、テクノロジーによって出張がなくなってしまうと、出張先での宴会がなくなってしまうので少し寂しい気もする。

3 お叱り

多くの弁護士の方々に叱られた。直近では、前の会議が白熱し後の会議に遅刻してしまった際、後の会議を主催していた弁護士から、「予定以上に時間がかかり途中で会議から抜けた弁護士と、わざわざ来所したのに遅刻してきた弁護士とのどちらが信頼を得られるのか」「約束を守らない弁護士は、クライアントから心からの信頼を得ることはできない」とガツンと言われた。「叱ってもらえることはありがたい」「成長」「思い出し」「修行」といったフレーズを意識しようと頑張るものの、

やはり心は辛い。辛いからこそ、頭に刻まれ、経験となり、仕事に対する甘さが払拭され、成長していく。そうなのだとは分かっているが、お酒を飲まないとやっつけられない日が多くなってしまった。ここ最近お酒がおいしくなった気がするのも、これが原因であろう（無責任に酔える日は極端に減ったが）。

当職の好きな詩の1つに、「自分の感受性くらい自分で守れ ばかものよ」（茨木のり子『自分の感受性くらい』（花神社））がある。その一節、「初心消えかかるのを 暮らしのせいにはするな そもそもが ひよわな志にすぎなかった」を強く意識した半年であった。

4 成長

ネガティブなことを備忘しすぎた気もするが、しかし振り返ってみると、この半年間で成長したなど実感している。

思えば、子どものころは成長していく自分の姿を毎日見ることができたものの、昨今はそのような機会が稀有になっていたと思う。もちろん、日々知識やら経験やらは得てはいた。ただ、それが成長だと実感したことはあまりなかった気がする。しかしこの半年は、日に日に進歩し、今日できないことでも明日にはできるようになっているということの連続であった（それでもよく叱られるわけだが）。

成長したと実感しているからこそ、叱ってくださった弁護士の方々に、上辺だけでなく、心から感謝している。

5 おわりに

弁護士は、誰かの人生を助け、法に従い公正で豊かな社会の実現を目指す側面が強いからこそ、真摯に人と紛争に向き合わなければならないと感じている。これからは青臭く泥臭く、したたかにがんばろうと思う。